



地球環境

地球環境保全を人類共通の重要な課題と認識し、事業活動において環境負荷低減に取り組み、持続可能な社会への貢献を目指します。

- サークュラーエコノミー型事業活動の確立 → P.16
- 環境指標 実績と推移 → P.18
- TCFD提言に基づく情報開示と対応 → P.20

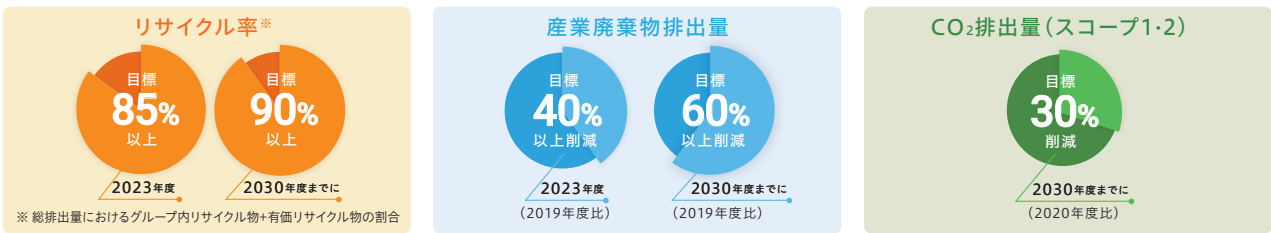


環境行動指針

1. 安心・安全な環境配慮設計、顧客サービスに積極的に取り組みます。
2. 省エネ・省資源・リサイクルに継続的に取り組みます。
3. 環境に関する法令を遵守し、企業の社会的責任を遂行します。
4. 環境目標を設定し、環境マネジメントシステムの活用と目標達成に努めます。
5. 環境方針と環境行動指針及び取り組み実績を定期的に公開します。

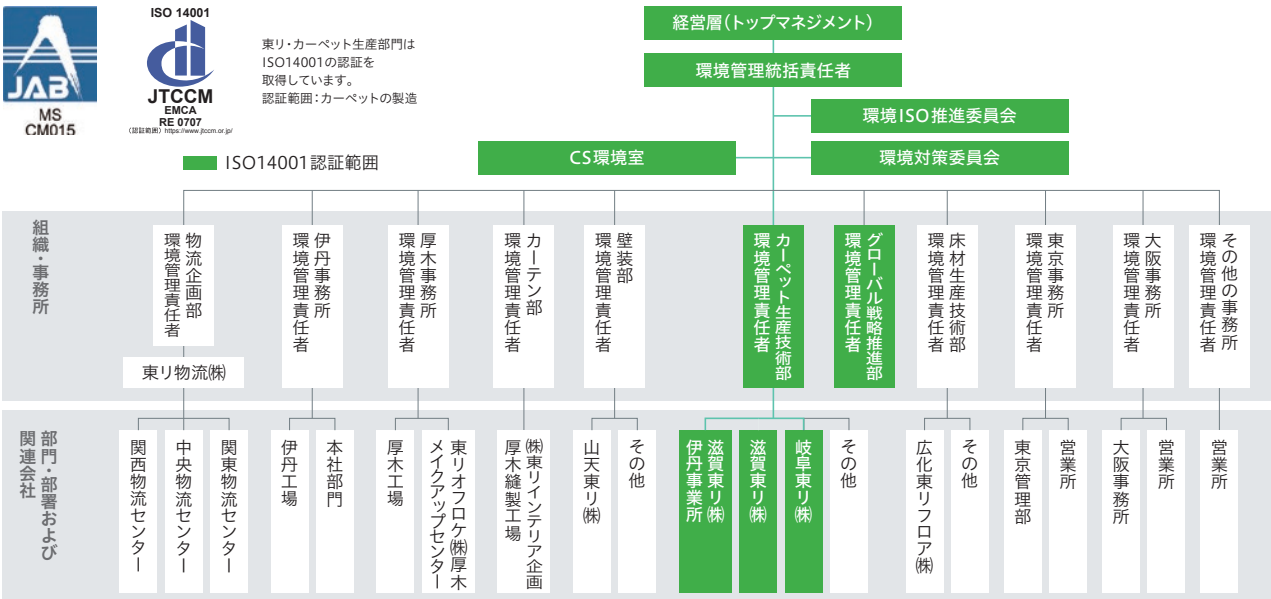


環境指標と目標



環境マネジメント推進体制

当社グループは、経営層をトップとする環境マネジメント体制のもと、各部門での環境負荷低減への取り組みを推進しています。また、カーペット生産部門においてはISO14001(環境マネジメントシステムに関する国際規格)の認証を取得しています。



サーキュラーエコノミー型事業活動の確立

当社グループはグループ全体でサーキュラーエコノミー型事業活動の構築を目指し、環境負荷低減に貢献すると共にグループの健全な成長に向け積極的に取り組んでいきます。

確立に向けた取り組み ①

<タイルカーペットリサイクルプラント 導入からフル稼働へ>

2021年、タイルカーペットの主力生産拠点である滋賀東リ(株)に「タイルカーペットリサイクルプラント」を導入しました。タイルカーペットのパイル層(表面繊維層)とバックング層を分離することなくリサイクルチップに加工し、タイルカーペットのバックング層の一部として再利用しています。2022年度以降は、ラインのフル稼働を計画しており、工場端材等のグループ内排出物のリサイクルにとどまらず、広域認定制度を利用した市中廃材の回収・処理も拡大し、環境負荷の低減に貢献します。



産業廃棄物削減量／CO ₂ 削減量※2		
	2021年度	2022年度
産業廃棄物削減処理量	約700 t	目標: 約2,300 t※1
CO ₂ 削減量※2	約930 t-CO ₂	目標: 約2,500 t-CO ₂

※1 市中廃材処理も含む
※2 CO₂削減効果および目標はサプライチェーン全体(スコープ1～3)の合計数値

確立に向けた取り組み ②

<リサイクル材使用商品の拡大>

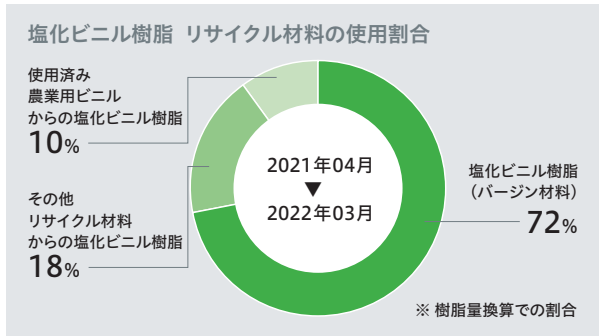
当社グループは、産業廃棄物の削減に向けて、リサイクル材の利用拡大を推進しています。おもな取り組みとしては、使用済み農業用ビニルからの塩化ビニル樹脂を原材料の一部として再利用する製造技術を開発し、さまざまな商品に利用することで産業廃棄物の削減に貢献しています。

ハウス栽培などで使用される農業用ビニル



<塩化ビニル樹脂:リサイクル材料の使用割合>

2021年度リサイクル材料の塩化ビニル樹脂割合は、28%(使用済み農業用ビニルからの塩化ビニル樹脂が10%、その他リサイクル材料からの塩化ビニル樹脂が18%)となりました。当社グループは、現状のリサイクル材や工場内リサイクルにとどまらず、広域認定制度を活用した使用済みタイルカーペットの市中廃材回収拡大にも積極的に取り組み、「TOLI完全循環型リサイクルシステム」を推進しています。





地球環境

確立に向けた取り組み ③

<TOLI完全循環型リサイクルシステムの推進>

当社が使用済みタイルカーペットを回収し、当社グループの工場にてタイルカーペット廃材をリサイクルチップに加工し、製造したリサイクルチップをタイルカーペットのバックングの一部として再利用します(サスティバック)。

当社は、「TOLI完全循環型リサイクルシステム」を推進し、サステナブルな社会の実現に貢献していきます。



<使用済みタイルカーペットの回収> 広域認定制度の活用

当社は国内で唯一、使用済みタイルカーペットの回収が認可されているカーペットメーカーです。

対象地域 リサイクル可能な床材
首都圏の都市部 東リ製 塩ビバック・タイルカーペットの
その他の地域について 使用済み廃材
でもご相談に応じます。
【お問い合わせ先】(東リ株式会社 CS 環境室)
TEL 東京 03-5470-1956 伊丹 06-6494-1535

確立に向けた取り組み ④

<見本リサイクルセンターにおける廃棄物の削減>

2022年8月、伊丹本社内に見本リサイクルセンターを開設しました。従来廃棄していた見本帳や現物サンプルを、廃棄物と原材料還元可能な資源に分別することで、廃棄時に排出するCO₂の削減を図ります。

開設初年度は商品改廃時に発生する伊丹本社管轄の未配布廃番見本帳および現物サンプルを対象として分別を進めています。



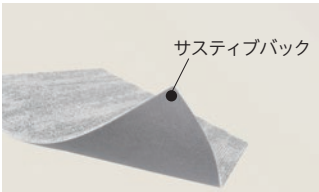
サンプル帳分解作業

確立に向けた取り組み ⑤

<環境配慮型製品の開発・提供>

「タイルカーペットGA-3600サスティバック」

サスティバックはタイルカーペットのバックング層の一部にリサイクルチップを使用した当社の環境対応タイルカーペットバックングです。当社グループ生産工場で発生したタイルカーペット廃材と市場から回収した使用済みタイルカーペットを再資源化し、産業廃棄物排出量の削減に寄与します。将来的には当社グループ内(タイルカーペット生産工場)でのゼロエミッションを目指すと共に、使用済みタイルカーペットのリサイクル拡大に取り組んでいきます。



※ GA-3600を基準に従来品(リサイクル材を使用していない)との比較



エコマーク



エコマーク認定商品
東リ株式会社

「生産」から「廃棄」にわたるライフサイクル全体を通して、環境の負荷が少なく、環境保全に役立つと認められた製品です。

グリーン購入法適合品



未利用繊維、リサイクル繊維、再生プラスチックおよびその他の再生材料の合計重量が製品全体重量比で25%以上使用されている製品です。

エコリーフ



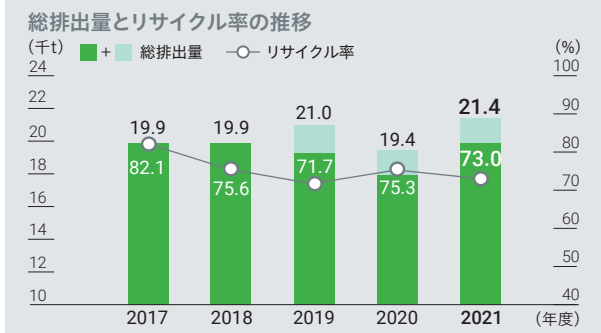
エコリーフ宣言(マーク)は、一般社団法人サステナブル経営推進機構が運営するSuMPO環境ラベルプログラムで認証したマークです。LCA(ライフサイクルアセスメント)によって得られた製品の定量的環境影響データを検証・公開するものです。

グリーンラベルプラス

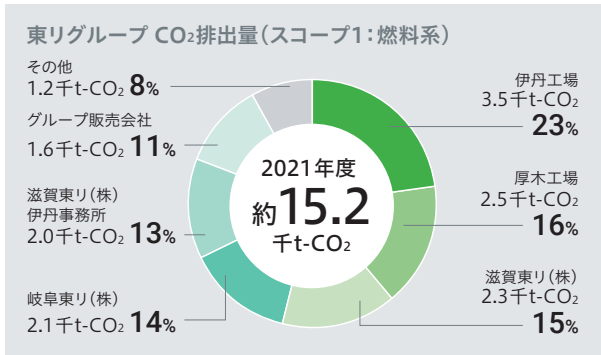


アメリカのカーペット・ラグ協会(CRI)により設定された、カーペット製品の室内空気環境の認証システムです。

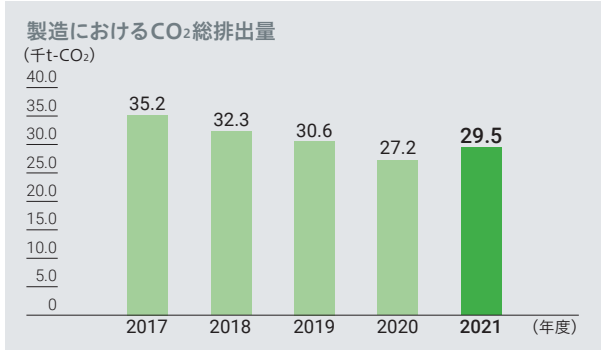
環境指標 実績と推移



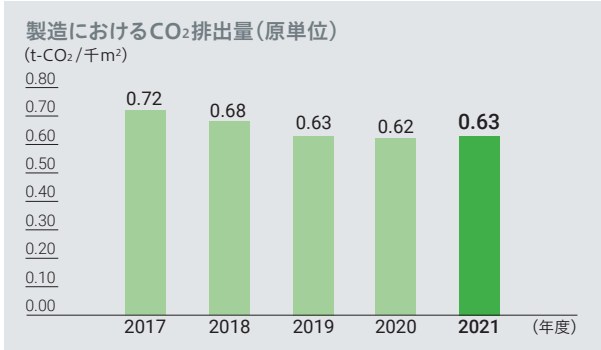
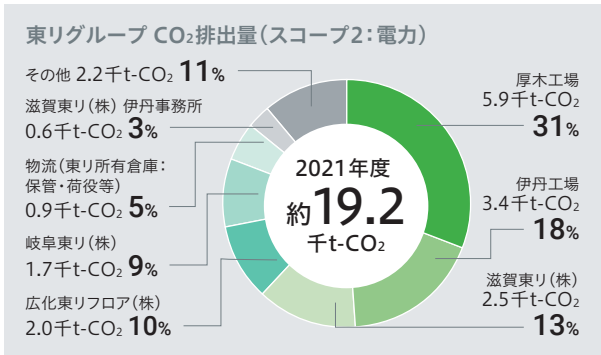
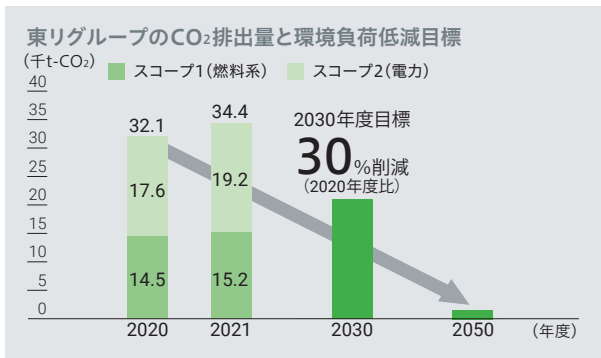
■: 2019年度より東リ物流のデータを算入



スコープ1・2集計対象: 本社、営業所、伊丹工場、厚木工場、東リ物流(株)、他グループ会社。東リグループ内の工場・倉庫間輸送および出荷のともなう荷役・保管・輸配送は、スコープ1・2にて算定。



集計対象範囲: 伊丹工場、厚木工場、広化東リフロア(株)、滋賀東リ(株)、滋賀東リ(株)伊丹事業所、岐阜東リ(株)、山天東リ(株)、東リオフロケ(株)、(株)東リインテリア企画



集計対象範囲: 左記に同じ
CO2排出量(原単位) = 燃料および電気の使用によるCO2排出量(t-CO2) ÷ 生産数量(千㎡)

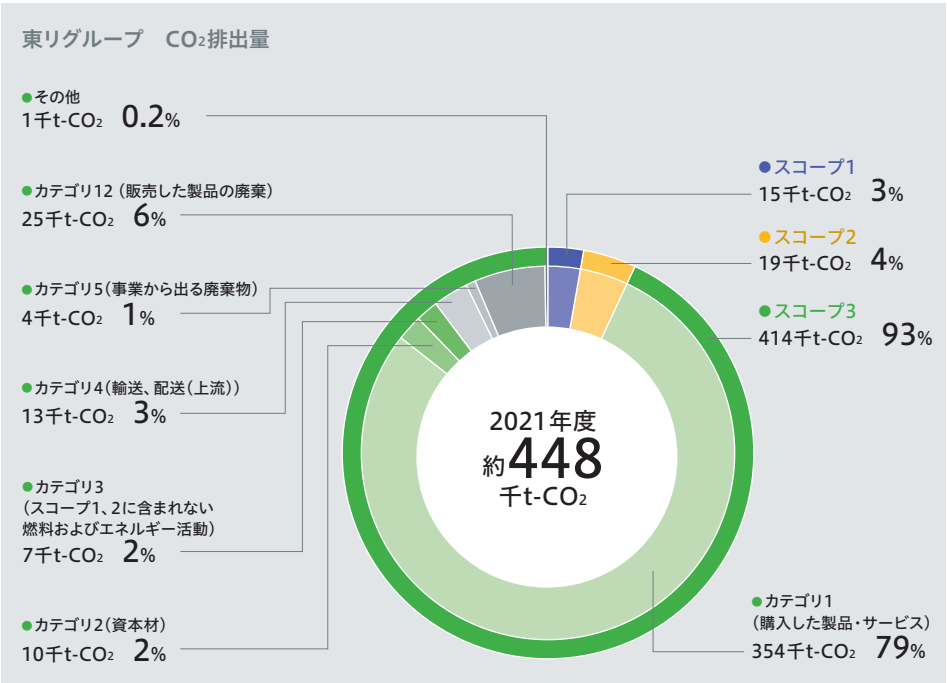
2021年度は生産数量の増加によりCO₂排出量は増加しました。

2021年度のおもな取り組み

- 生産工程の見直しによる省エネ推進
- 廃熱ボイラーの活用やインバータ化等による設備高効率化
- 屋内照明のLED化
- 社用車の一部HV化



地球環境



・環境省、経済産業省「サプライチェーンを通じた温室効果ガス排出量算定に関する基本ガイドライン (ver.2.4)」をもとに算出しました
・当社グループ内の工場、倉庫間輸送、出荷にともなう委託先倉庫の荷役・保管および輸配送は、環境省ガイドラインに従いスコープ3のカテゴリ4にて算定しました
・スコープ3の算定は当社が販売する製品に関する事業活動部分を算定、当社グループ販社の他社仕入販売は算定対象に含みません
・四捨五入の影響により合計は100%になりません
・スコープ3の各カテゴリの算定は、継続的に算定精度の向上に努め、見直しを行っています

環境会計

環境保全コスト

(単位: 百万円)

分類		おもな取り組み内容	2020年度		2021年度	
			費用	投資	費用	投資
(1) 事業エリア内コスト			426	57	423	68
内訳	(1)-1 公害防止コスト	公害防止設備の導入や維持管理	122	55	135	17
	(1)-2 地球環境保全コスト	省エネルギー設備の導入や維持管理	20	2	48	51
	(1)-3 資源循環コスト	リサイクル、廃棄物処理、プレカット	284	0	240	0
(2) 上・下流コスト		エコマーク使用料	5	0	9	0
(3) 管理活動コスト		環境マネジメントシステムの維持、植栽管理	28	0	30	0
(4) 研究開発コスト		環境配慮型商品の開発	91	2	81	129
(5) 社会活動コスト		—	0	0	0	0
(6) 環境損傷対応コスト		汚染負荷量賦課金 (大気)	1	0	1	0
		合計	551	59	544	197

環境保全効果

効果項目		2020年度	2021年度
エネルギー使用量	(千GJ)	672.5	717.0
二酸化炭素排出量 ^{※1}	(千t)	29.8	32.1
廃棄物総排出量 ^{※1}	(千t)	19.8	21.7
リサイクル率 ^{※1}	(%)	74.0	72.7

※1 P.18のグラフとは集計範囲が異なるため値が異なります。

環境保全対策にともなう経済効果

(単位: 百万円)

効果項目		2021年度
収入 ^{※2}	有価物売却による収益	42.5
費用削減 ^{※3}	エネルギー費用削減	-171.6
	廃棄物処理費用削減	-24.6
合計		-153.7

※2 有価物を廃棄処理した場合の推定支払費用+実際の収入額

※3 実績値の前年度差額 (+は費用削減、-は費用増加)

集計対象: 本社、営業所、伊丹工場、厚木工場、広化東リフロア(株)、滋賀東リ(株)、滋賀東リ(株)伊丹事業所、岐阜東リ(株)、山天東リ(株)、東リオフロケ(株)、(株)東リインテリア企画、東リ物流(株)

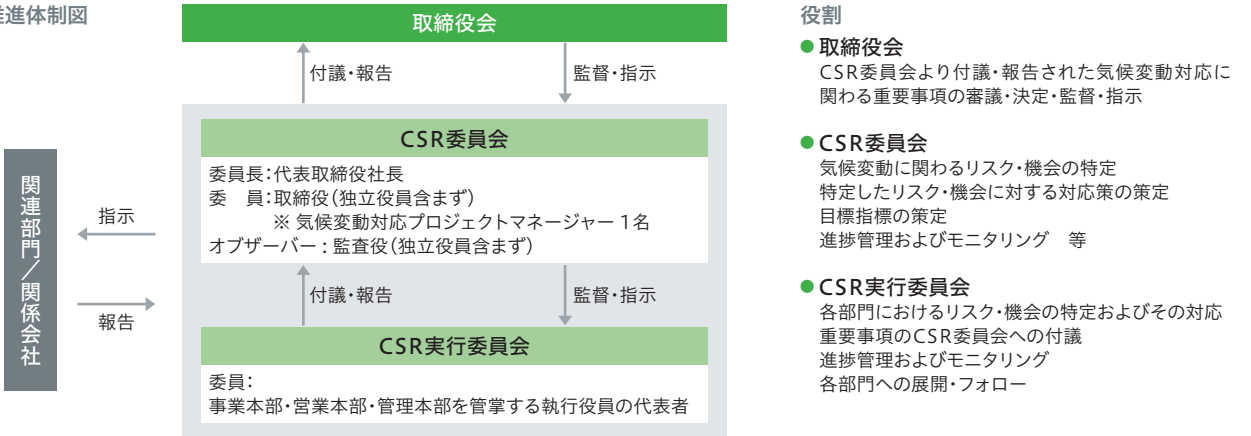
集計参考: 環境会計ガイドライン2005年版(環境省)

TCFD提言に基づく情報開示と対応

当社は2022年4月1日より気候変動対応プロジェクトマネージャーを新設し、同5日に金融安定理事会(FSB)の気候関連財務情報開示タスクフォース(TCFD) 提言への賛同とコンソーシアムへの参画を表明しました。気候変動がもたらす事業へのリスクと機会について、関連情報の開示の質と量を充実させると共に、気候変動に対する分析と取り組みをより一層強化していきます。なお、TCFD関連情報は、当社ホームページのIR情報に開示しています。

TCFDへの対応

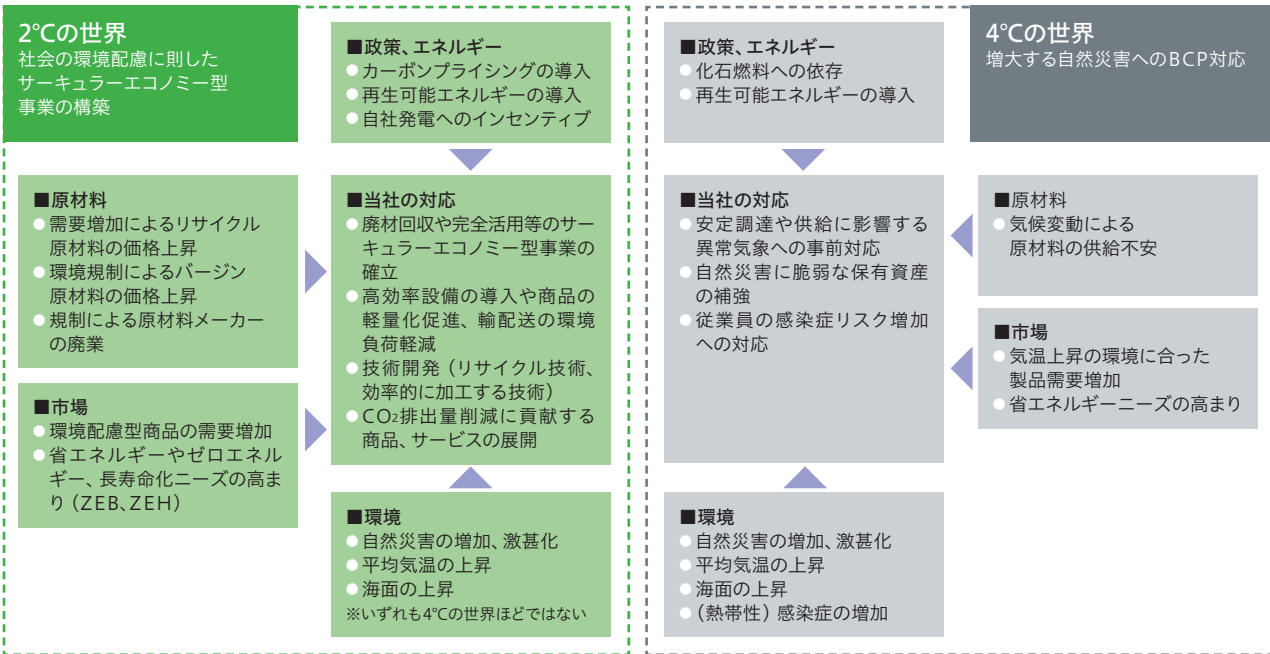
推進体制図



<シナリオ分析>

当社では、将来における気候変動のシナリオとして、2℃と4℃の温度帯を想定し、2030年におけるシナリオ分析を実施しています。

※ シナリオ分析につきまして、まずは売上構成比の高い国内事業から開始しました。 今後順次、海外事業にも展開していきます。



以下の表に示す政府機関および研究機関で開示されているシナリオなどを参照しています。

世界観	分析に用いたシナリオ	
2℃	SDS (持続可能な開発シナリオ) : IEA「World Energy Outlook 2021」	RCP2.6 (2℃シナリオ) : IPCC「AR5」
4℃	STEPS (公表政策シナリオ) : IEA「World Energy Outlook 2021」	RCP8.5 (4℃シナリオ) : IPCC「AR5」

